

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
流通論 Theory of Distribution		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経済学、経営学ⅠⅡ、ビジネス実務総論、簿記ⅠⅡ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
経済学、経営学Ⅱ、ビジネス実務総論、簿記Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
私達が日頃購買・消費する様々な商品は如何なるメカニズムで私達の手元に届くのか。そこでは如何なる（流通）機能が遂行され、如何なる（流通）機関が介在するのか。また私達は何ら疑問を持たず、自らのニーズを満たす商品を、望む時機・場所・価格・方法で入手する。それは様々な流通機関が生産と消費の間に介在し、流通機能を遂行しているからである。本授業の内容は、様々な商品が、生産者から私達に届くことを可能とするメカニズムの解明にあり、流通論として確保されるべき不変の部分を保持しつつ、現代流通の変革についても論じる。				
授業の目標				
①流通は生産と消費をつなぐことで、商品の社会的移転を円滑に行うことを手助けしているという重要な役割を認識することができるようにする。 ②流通の役割が適切に果たされることで、われわれの経済生活がより豊かで、より便利になっていることを実感できるようにする。 ③複雑で多様なながらも、日々の生活に密接に関連した流通の仕組みや役割を体得できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ブレインストーミング、サービスラーニング、ディスカッション、グループワーク等のアクティブラーニングを活用しながら、流通論に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果（学習成果）				
交換経済における流通の重要性やその役割を学習した上で、商品の社会的移転が円滑に図られていることを説明するとともに、複雑で多様な流通の仕組みやその役割についてのポイントを説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンスーこの授業の進め方と大学での学び方/レポート課題説明と出題 *シラバスを読んでおき、この授業に関する質問事項を考えておくこと。			
第2回目	流通の社会的役割ー生産と消費の間の経済的懸隔、流通の社会的役割			
第3回目	流通機能の意義と領域ー流通機能の意義と内容、流通フロー、商流にかかわる流通機能、情報流にかかわる流通機能、物流にかかわる流通機能、経済的懸隔と流通機能の対応			
第4回目	流通経路ー流通経路の意義、流通経路の基本的な形態、主導権者別流通経路、流通における商業者の地位の後退/(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)			
第5回目	小売業ー小売業の概念、小売業の活動、小売業の存在意義、小売業の分類ー業種・業態			
第6回目	小売業の生起・発展ー小売業の生起・発展に関する仮説の解説およびその問題点			

第7回目	卸売業—卸売業の意義、流通における卸売業の位置づけ、卸売業の機能、卸売業の存在意義	
第8回目	卸売業の分類①—取扱商品、商圈、流通過程の位置、規模、経営主体、遂行する機能、所有権の有無/(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)	
第9回目	卸売業の分類②—経営主体による分類、遂行する機能による分類、所有権の有無による分類 *レポート (提出は第14回目)	
第10回目	小売業の経営課題—小売業における競争、小売業の生き残り と 経営課題 卸売業の経営課題—卸売業における競争、卸売業の生き残り と 経営課題	
第11回目	メーカーの流通チャネル戦略—メーカーの流通チャネル戦略とそのプロセス、3つのチャネル戦略、垂直的マーケティング・システムと流通系列化、メーカーの店頭コントロール	
第12回目	流通政策と現代流通—流通政策の概念と範囲、わが国の大型店政策、新しい流通政策	
第13回目	競争政策と現代流通①—競争政策と独占禁止法、独占禁止法の概要 授業の総括—上記1-13回のまとめ。	
第14回目	競争政策と現代流通②—流通・取引慣行ガイドラインと取引慣行・商慣行/(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)	
第15回目	競争政策と現代流通②—流通取引における独占禁止法の問題領域	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験		
発表内容 (態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
		長江庸泰作成の“デジタルテキスト[流通論2018年度版]”を活用する。
履修上の留意点・ルール		
		本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。